

野の仏ギャラリー⑫

千手観音立像

東多久町別府

立像と光背・蓮華台が一体化しています。頭上に雲文などの飾りがある宝冠を載せています。優しい表情で、額に白毫があり、両肩から天衣が垂下しています。正面に六手あり、上段の左手は蓮を持ち、右手は施無畏印、中段は合掌、下段は両手に経箱を持っています。光背の左手に槍、法輪、斧を持ち、一手は持物がありません。光背の右手に錫杖、宝鏡、曲(矩)尺、絹索を持っています。千手観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の1つです。千の手と千の眼で衆生を救済するとされます。

銘「東多久新四国八十八ヶ所 千手観世音

施主 合六五州雄 同「優」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

- 白毫は仏の眉間に生える白い毛で光明を放ちます。
- 天衣はシヨール状の衣です。
- 施無畏印は畏れなくともよいという印です。

今月の論語

苗にして

秀でざる者あり

せっかく芽を出しても成長しない人もいます。一生懸命努力をしましょう。

今月の帰宅放送は、東原岸舎東部校9年の内田瑞穂さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「夢」

かつて、テレビで、「夢を見ると育てられ、夢を見ていたらいつまでも夢を見るなど叱られる」という意味合いの台詞があり、頷いた。

夢を見つけて、それが仕事になるなら幸せだ。憧れているだけでなく、努力を重ねた結果の夢実現だから、頭が下がる。ただ、多くは進路を決める際に厳しい現実に基づかり、進路変更や方向転換を迫られる。

ある父親が「人生をやり直せるなら中学生に戻り、勉強も運動も一生懸命にする」と言う。私は、スターやスポーツ選手になると言い出すと思っていたら、「そして、九州の某電力会社に入社する」

子どもたち一人ひとりの才能を引き出し、長所を活かす進路への導きでありたい。そのことが、ひいては物づくり日本を受け継ぐことや、山・海・国土を守ることに繋がるかもしれない。と、これは私の夢なのか。

教育長 田原優子

市民文芸

◆飛翔するさま描きつつ鶯草の  
息づく小さき球根を植ゆ  
川浪 信子

◆堂々と意見を述べる孫娘の出る  
「子供議会」のテレビに釘つけ  
梶原恵美子

◆漆黒の宇宙に浮かぶこの地球の  
いのち縮める人類の愚かさ  
浦野 嘉恵

◆力強く生きるためには不思議だね  
力を抜くのが一番いいね  
野崎 隆幸

◆何を目あてに生きさしものかわがひと世  
今となりてはただ父母の恩  
尾形 節子

◆平らかな玄海灘の春夕焼  
おおやはな  
武富 律子

◆まんさくの縮れ咲きたる空の青  
初つばめ川面にちよいと口づけす  
中嶋 清子

◆早春や手打ちうどんの桜色  
本村 則子

◆日曜の紅うすく引く花馬酔木  
大石ひろ女

◆ウイルスに世界のもろさ暴露され  
静かだね桜の花の独り言  
中尾 和弘

◆人間に冷たくされて桜散る  
松山下 修

◆ひとり旅視界不良の道を行く  
西山 残月

◆靴音も春はワルツで三拍子  
田中久美子

◆大谷 和子

川柳 《多久川柳会 互選》

俳句 《互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》